

温泉旅館 赤ちゃんと

赤ちゃんと連れに配慮した宿泊プランが東北地方の温泉地でも増えている。さまざまな宿泊客を呼び込もうという対応策の一つでもある。「当地で温泉デビューを」と工夫を凝らす。

デビュー後押し

お風呂用のイス、爪切り、おしりふき……。山形県上山市の温泉旅館「彩花亭」時代屋が、赤ちゃんと連れプランの利用者に貸し出すグッズだ。社長の富士重人さん(69)は「荷物が少なくてすむと喜んでもらっている」と話す。

時代屋は旅館の改装に合わせ、2005年から赤ちゃんの温泉デビューのプランを始めた。「以前から「赤ちゃんを入れられますか」と問い合わせがあった。改装してお風呂付きの客室をつくったので、受け入れようかと」

始めると決めてからは早かった。どんな「おもてなし」が必要なのか、女将や子育て経験のある従業員が集まり、1時間ほど話し合った。従業員からは「赤ちゃんは急に泣くこともある。個室の方が気兼ねしないのでは」という意見が出て、朝夕食は個

グッズ貸し出し・離乳食…プランに工夫



客室に付く露天風呂と富士社長。「時代屋」では赤ちゃん向けにお風呂用いす(右)などを貸し出している＝山形県上山市葉山

室に。「赤ちゃんが寝たところにお部屋の電話が鳴ると起きてしまうかも」。部屋への連絡は、泊まり客の携帯電話に入れることにした。

食材を細かく伝える。予約をもちょうと、持病などで気をつけることはないか必ず聞く。とはいえ「赤ちゃんプランからリピーターが生まれている。旅館にとって次につながるというのには重要」と富士さん。温泉デビューした赤ちゃんが大きくなってからも来てくれる家族もいる。「赤ちゃんはお得意様です」

同県南陽市の赤湯温泉「丹泉ホテル」でもグッズをそろえて歓迎する。「赤湯温泉で」

「将来のお得意様」歓迎



貸し出し用の赤ちゃん用ソファを持つ丹泉ホテルの丸森専務。ベビーカーや使用済みのおむつを入れるバケツなども貸し出すという＝山形県南陽市赤湯温泉

2015年で増加

「赤ちゃん向けのプランが目立ち始めたのは、ここ5年くらい」と言うのは、JTB東北(仙台市)の担当者だ。団体旅行が減り、さまざまな宿泊客に対応していく中でプランが出てきたという。また、代替わりで若い経営者になり、赤ちゃんと旅行した自らの経験からプランを始めた宿もある。

岩手県花巻市の「結びの宿 愛隣館」は赤ちゃんプラン

赤ちゃんの入浴時の注意点

(三友さんによる)

- ・硫黄泉など刺激の強い泉質、高温の湯は避ける
- ・成分の薄い単純泉が望ましい
- ・温泉からあがる時は水道水のお湯で流す
- ・脱水症状が起きないように入浴の前後に水分をとらせる
- ・濡れたり滑ったりしないよう気を配る

に限り、発熱など急な体調不良でのキャンセルを当日午前8時まで無料にした。仙台市太白区の「奥州秋保温泉 蘭亭」は、子連れ客のためのサポートセンターを設けて滞在中の相談に乗る。福島県会津若松市の「庄助の宿 龍の湯」では、月齢に合わせた離乳食を板前がつくる。

日本温泉気候物理医学会温泉療法医会の三友紀男会長によると、乳幼児は、硫黄泉など刺激の強い泉質や高温の湯は避けた方がいいという。

「子どもは肌が弱いので、温泉からあがる時に水道水のお湯で流した方がいい」

最も重要なことは、実は通常の入浴と変わらない。「脱水を起こさないよう入浴の前後に水分をとらせること。濡れたり、滑って転んだりしないよう、気を配ることが大事です」